

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ま〜ぶる・び〜と		
○保護者評価実施期間	2025年1月14日		2025年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48 (回答者数)	43
○従業者評価実施期間	7年 1月14日		7年 1月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2007年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士・言語聴覚士・保育士を配置し、療育・支援に関わっている。	近年は特に摂食に関し医療と連携を図っている。特にダウン症のお子さまの場合は、舌の使い方に難しさがあり、咀嚼や発音の問題もだが、(誤嚥)のリスクを伴うため、定期的に連携を図りながら、支援を行っている。	医療や関係機関との連携を図り、利用者様の生活圏で完結できる体制づくりを行政と一緒に行っていきたい。そのためには地区担当保健師様や支給決定窓口の障害福祉課様とのやり取りを行い、(次)につながる道筋を保護者様と一緒に進めていく。
2	相談支援専門員の資格を有するスタッフ及び相談支援専門員研修を受けたスタッフ、並びに児童発達支援管理責任者も複数配置し、多角的な視点で保護者様にアドバイス等ができる。	保護者様からのご相談に対し、相談支援事業所にも相談するようにお話を常に行っており、情報が事業所のみならず相談支援事業所にも(保護者様からも)伝わるようにお伝えしている。これにより、問題の重要性や緊急性等の共有化を図る。	セルフプランから相談支援事業所に移行できるように、定期的な勉強会を保護者様やスタッフに対し計画的に開催し、制度の理解と重要性を伝えることを行う。また、説明に対しては何度も練習を重ねていかなくてはならないため、持ち回り制などを検討し、多くのスタッフが伝えるスキルが身につくようにしたい。
3	仙台市のみならず、他の自治体地域においても支援を提供しているため、他自治体の取組で良い点を取り入れることができる事、多くの相談支援専門員とのやり取り、アドバイス等を受けられている点である。	他の自治体の手法をお伝えし、参考にさせていただくことをしている。実際に参考にするかは、各自治体の判断になる。	例えば担当者会議の開催にあたり、他の自治体ではこのような形で参加されているので、お声がけをお願いしたり、実際にお願ひしたりしているため、関係機関が共通の認識がもてるように、随時継続して取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療(主治医)との連携だと考えます。担当者会議等の開催にあたり医療が参加しない事例が多々あり、弊社としてはほとんどやりあう気持ちではいるが、その後の保護者様や本人様のことを考えた際に言いにくい点である。連携とは何かを課題と考えている。	地域生活を考えた際に、遠方の地域の情報が手元に無い事である。イメージして頂けるようにお伝えしていくことが課題である。	事業所内で完結できることとそうではないことがある。事例等整理し、仙台市等にお伺いを立てるようにしたい。
2	送迎サービスがないことにより、天候やご兄弟の都合等によって通所を休まれるケースが多々ある。これは、車の運転に自信がないご家庭の事情もあるが、本人様の支援や支援計画の達成に対し、支障が出る場合もある。	地域資源の有効活用とセルフプランの方々へのサポートが弱かったと考える。通所に時間や距離がかかるケースは、他事業所等への引継ぎ等を行うことが、本人家族支援にもなると考えている。情報の収集が必要である。	情報収集に関し、ホームページやインスタグラム等を活用し、実際の支援内容等を収集し、保護者様にわかりやすく伝えるよう、実行していくことが必要と考えている。
3	アンケートにあった(保護者会)等の開催に関し、国が考えるあり方や事業所と保護者様の考え方の相違があると考えている。今後は開催に向けての情報収集と運用を検討し、実行に移すようにしたい。	保護者様とのやり取りが通常の支援時のみであった。休日等の利用も視野に入れ、今後の開催に向け活動していく。	休日や時間外に行う場合には、給与体系、勤務体系の見直しも必要な場合もあり得る。